

製品名: メラノプシンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13815**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	OPN4
別名	OPN4; MOP; Melanopsin; Opsin-4
遺伝子 ID	94233.0
SwissProt ID	Q9UHM6
免疫原	抗血清はヒト OPN4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 429-478

背景

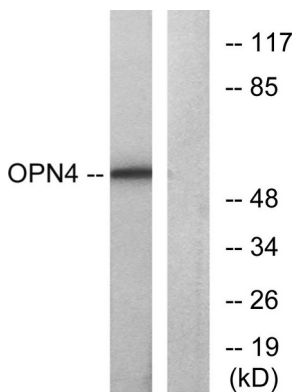
オプシンは、グアニンヌクレオチド結合タンパク質（Gタンパク質）共役受容体スーパーファミリーのメンバーです。この遺伝子は、網膜の神経節細胞層およびアマクリン細胞層で発現する光受容オプシントタンパク質をコードしています。マウスでは、この遺伝

子を発現する網膜神経節細胞の軸索は、視交叉上核および概日リズムの光同調に関与する他の脳核に投射しました。マウスでは、このタンパク質は G タンパク質シグナル伝達経路を介して一過性受容体電位 (TRP) イオンチャンネルに共役し、膜の脱分極および細胞内カルシウムの増加を介して生理的な光応答を引き起こします。このタンパク質は感覚光色素として機能し、光異性化酵素活性も有している可能性があります。ノックアウトマウスを用いた実験では、この遺伝子は光同調を減弱させるものの、完全に除去するわけではないことが示されています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。 [Ref 提供] 注意: ここに示す配列は Ensembl 自動解析パイプラインから得られたものであり、予備データとして考慮する必要があります。機能: 概日リズムの調節に必要な光受容体。瞳孔反射やその他の非画像形成性光反応に寄与する。共有結合したオールトランスレチナルを 11-シスレチナルに異性化できる可能性がある。類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。オプシンサブファミリー。細胞内局在: 特定の網膜神経節細胞の細胞体、樹状突起、および軸索近位部に認められる。組織特異性: 眼。発現は網膜の神経節細胞層とアマクリン細胞層に限定されている。

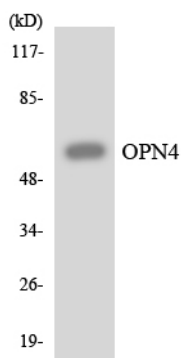
研究分野

神経科学; 感覚系; 視覚系

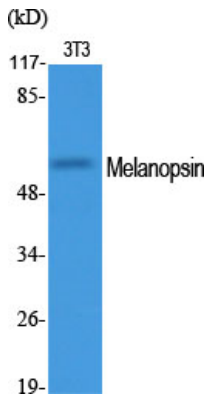
画像データ



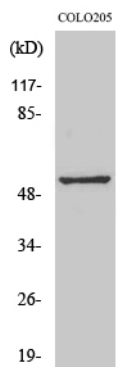
OPN4 抗体を用いた COLO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



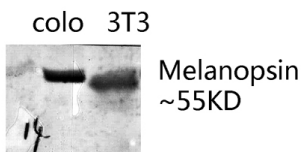
OPN4 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



メラノプシンポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



メラノプシンポリクローナル抗体を用いた COLO205 細胞のウェスタンブロット解析



メラノプシンポリクローナル抗体を用いた様々な溶解物のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。